

**■研究課題名：**

留学生の援助要請

■研究者名、所属：安婷婷 AN TINGTING 人間系心理学域/グローバル・コモンズ
機構留学生相談室**■研究分野：**

留学生支援, 援助要請, 留学生のメンタルヘルス

【研究の背景・目的】

日本で学ぶ留学生が増える中、彼らへの支援が喫緊の課題である。留学生が異文化適応していくなかで、多くのストレスを抱えており、抑うつなどに陥りやすいともいわれている。しかし、彼らが必ずしも積極的に援助を求めるとは限らない。これまでも、海外の研究では、留学生が現地留学生ほど学生相談機関を利用しない傾向が確認されている。留学生がどのような援助要請の特徴を持っているかが、彼らを支援する上で重要といえる。しかし、これまでの海外の研究では、東アジア文化を一括りに扱われることが多く、アジア文化圏内の文化間比較が少ない。在日留学生の半分弱を占めている東アジア留学生の援助要請研究も乏しい。東アジア留学生が積極的に援助要請をしないなか、彼らの援助要請に影響する要因を特定することが、支援の上で決定的に重要である。

【研究の概要・成果等】

私はこれまで、留学生の中で一番割合が高い中国人留学の援助要請の特徴及びその影響要因について研究してきた。抑うつ状況において、専門家・非専門家への援助要請行動プロセスの特徴について、日本人大学生と中国人留学生の文化間比較を行い、中国人留学生の方が「独力で解決する」有効性をより評価しており、日本人の方が専門家治療の有効性を高く評価してことが明らかになった。また、抑うつ状況において、専門家・非専門家への援助要請行動プロセスにどのような要因が関係するかを量的に検討し、両者の文化間比較を行った結果、両者の間、低い SDS の得点と高いソーシャルサポートが共通して援助要請の意思決定のいくつかのステップに正の関連を示した。また、中国人留学生の場合は各ステップで影響する要因が、家族サポートと原因認知のうちのストレス要因に顕著に集中する傾向が見られたのに対して、日本人学生の場合は、各ステップに異なる要因が影響する傾向が見られた。しかし、これらの違いが見られたのが、中国人だからなのか、留学生しているからなのかは分かっていない。そのため、今後日本に留学生してる中国人留学生と中国にいる大学生を比較検討していく。

【期待される意義や波及効果等】

留学生の援助要請の特徴と影響要因を明らかにすることによって、援助要請促進のた

めの介入の指針が得られる。彼らの援助要請を高める上で、どのような点を心理教育のターゲットにすべきか、どのような内容で心理教育を構成すべきかを明確にすることができると考えられる。このように本研究から、援助要請を促進するための方法を検討する際に必要な基礎知見が得られると考えられる。これらの基礎知見は援助要請の向上に活かせるのだけではなく、留学生向けのうつ病予防・介入などの心理支援を提供する現場においても、彼らの援助要請の特性に配慮するという意味で、幅広く応用できると考えられる。

【主な論文・著書・ホームページ等】

- 安婷婷（2018）.日本語学校の留学生が抱える困難-留学生相談内容の記録分析から,臨床心理学, 18(6), 754-759.
- 安婷婷・菅沼慎一郎・下山晴彦（2018）.日本語学校に在籍する中国人留学生がiCBT（MoodGYM）を利用する際の意思決定プロセス, 心理臨床学研究, 36(3), 299-310.
- 安婷婷・菅沼慎一郎・小倉加奈子・下山晴彦（2016）.インターネットを用いた認知行動療法の最新のレビューと今後の展望, 臨床心理学, 16(2), 219-231.
- 安婷婷（2017）. 日本語学校に在籍する中国人留学生の段階的サポートニーズ – フォーカス・グループ・インタビューから –, 東京大学大学院教育学研究科紀要, 56, 109-119.

さらに詳しい情報は以下をご覧ください。

<https://researchmap.jp/antingting/>

<http://www.trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000004087>